

### 母校は今

手広中に転任された手塚校長先生に代わって、金井勝政先生が新校長として四月に赴任されました。登山がお好きな先生で、早速この会報にも山にまつわるエッセイを寄せて頂きました。また同窓会担当には滝口先生が復帰されています。

本年四月の新生生は一昨年に続き四クラス、全校で一三クラス・四六九人となり昭和三〇年代後半の生徒数にまで減少しました。最も生徒の多かった時期（昭和五七年頃）に比べると、実に三分の一ということになります。

### 今夏の部活動あれこれ

全国的に猛暑のなかで今年も深中生の「夏の大会」や文化祭に向けての活動が熱く展開されました。

中でも輝いていた部活は野球部です。市内大会で優勝を果たし、湘南大会でも勝ち抜き、県大会へ出場となりました。二回戦敗退でしたが、毎試合感動的な試合に選手、応援団とも大いに盛り上がりました。

女子ソフトテニスでは杉内華恵・佐藤美鈴組が湘南大会で九位、三村史子・鈴木麻紗子組が十一位、団体戦ベスト16と健闘しました。

剣道部は市内大会女子個人戦で坂

垣由衣さんが準優勝、安田成美さんが二位。団体戦では見事に男女ともに優勝カップを手に入れました。

バレーボール部は市内大会で準優勝、湘南大会で三位と順当に勝ち進み県大会にコマを進めました。二回戦敗退となりましたが、三年生最後の大会にふさわしい好ゲームを見せてくれました。

陸上部では原田正樹君（一年生）が栃木県で行われた関東大会の二〇〇Mに出場しました。

サッカー部は試合ごとに、ねばり強さが発揮され市内大会三位でした。

文化部は文化祭の発表に向けての活動が中心でした。家庭部がコンピューターで手芸作品に挑戦したり、市内中

### 平成12年度卒業生の進路状況

#### 公立高校

大船22名 深沢15名 湘南15名 鎌倉13名  
七里ガ浜10名 大清水10名 湘南台10名  
藤沢8名 藤沢工業8名 藤沢北7名 長後6名 藤沢西・寒川・平塚農業各2名  
旭・横浜日野・横浜商業各1名

#### 私立高校

鶴沼女子24名 湘南工科大付属22名 藤嶺  
藤沢17名 日大藤沢15名 横須賀学院15名  
山手学院12名 横浜学園12名 藤沢翔陵11名  
平塚清風8名 三浦7名 アレセイア  
湘南5名 旭丘・相洋・鎌倉学園・横浜商科大各4名 逗子開成・横浜・北鎌倉女子各3名 桐蔭学園・横浜商工・市川・鎌倉女子大・聖和学院・緑ヶ丘女子各2名  
I C U・青山学院・玉川学園・東海大相模・渋谷教育学園幕張・慶應志木・慶應日吉・法政二・早稲田・早稲田高等学院・相模女子・橘女子・白鵬女子・法政女子・横浜女学院各1名

#### 専修・専門学校

文化学院・町田調理師各2名 岩谷学園・武蔵国際各1名

#### 就職 2名

学校演劇発表会で優秀賞を受賞した演劇部が新作の取り組みをしたり、どの部活も創意工夫をこらしたものでした。例年にも増して充実した深中祭の展示発表が見られそうに楽しみです。

### 深友会からの

#### お知らせとお願い

「深友会だより」第四号をお届けいたします。同窓会の皆様方には、原稿執筆、賛助金ご送付等にご協力頂き有り難うございます。また会の運営、会報の発行に対し暖かい励ましのお言葉を頂き、厚く御礼申し上げます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

この会報がお手元に届かない方で送付を希望される方は事務局までお知らせ下さい。住所変更等で返送されてくる例も増えていきます。変更の際はご一報下さい。またできるだけ多くの方に会報をお届けするために、新たに同級生の名簿を作製された場合は一部お送り頂ければ幸いです。

事務局への通信、賛助金のお振り込みの際は、整理の都合上、ご面倒ですが卒業年度と旧姓をご明記下さるようお願い申し上げます。

### 鎌倉ゆかりの文学を訪ねて

昨年十月二十九日、県立衛生短大名誉教授の鈴木良昭先生を講師にお迎えして鎌倉の長谷・極楽寺方面への「文学歴史散歩」が深友会主催で行われました。午前十時に鎌倉駅に集合、吉屋信子記念館を経て鎌倉文学館へ。講座室で文学館の前身加賀前田家別邸を描いた文学や、鎌倉ゆかりの文学作品などの講義を受けた後、昼食そして館内を自由見学、その後川端康成邸、大仏の与謝野晶子句碑、極楽寺、阿仏尼邸跡等を訪ね、午後三時すぎ解散しました。当日は生憎の小雨模様でしたが、二十数名の参加者は興味深い先生のお話と、しつとりとした鎌倉の風情を心ゆくまで堪能しました。



### 子どもたちの健やかな成長を願って

深友会（深沢中学校同窓会）会長 嶋村勝美

深沢中学校  
同窓会報

# 深友会だより

第4号

鎌倉市立  
深沢中学校  
深友会事務局  
〒247-0063  
鎌倉市梶原1-14-1  
☎0467-44-1222

文部科学省が行っている学校基本調査によると、平成十二年度一年間で三十日以上学校を休んだ不登校の小中学生が一三四、〇〇〇人上ったと新聞報道された。しかも、この人数は不登校の調査を始めて以来九年連続して増え続けているとのことである。

児童生徒全体に占める不登校の割合では、小学校〇・三六％（二七九人一人）、中学校二・六三％（三八一人）で中学生ではクラスに一人以上の不登校生がいる計算になる。不登校になった要因として、いじめや教師への不信、親子関係によるケースが多く、集団生活への漠然とした不安、緊張、無気力なども挙げられる。

また、こうした不登校児の背景には、①子どもたちのコミュニケーション能力の低下で比較的小さいトラブルにも

「不適応」を起こしがち、②学校に価値を感じず、学校に行かないで好きなことをするタイプが現れている、などが指摘されている。

私は経済的な豊かさや多様な価値観がこうした子どもたちを生み出したのではないかと考える。私たちの中学校時代（昭和三〇年代）はこの家庭にも電化製品は無く家事は殆ど手作業だったから、子どもたちも家族の一労働者として使われ、それが当たり前であった。だから子どもたちは家にいれば家事の手伝いをさせられるので学校にいた方が楽しかった。勉強は苦手でも家事労働や農作業と比べれば学校にいる方が居心地が良かった。

当然、時代が違うのでこうした状況に戻ることは無いのだが、子どもと謂えども一人の人間であり、家庭とか社

会で役立つことがあるはずである。人間は人の役に立つことで喜びとか意欲が出てくるのだと思う。

一昨年から私の勤務する幼稚園に中学生が職場体験でやって来るが、体験した生徒の感想を一部紹介すると、「小さい子はすごくかわいかった。まだあの頃は自分のしたいところに集まり、友達とかクラスの子だけでなく、同じことをしたいと思った子たちと普通に遊んでいるのがうらやましかった」、「幼稚園の子と遊んでいると疲れるけど、自分も昔はこんなことをしていたんだなと思いました。先生方も親切にしてくれました。幼稚園に行つてよかったと思います」、「小さな子には、やさしくしたり、仲良くしてあげたいです」、「小さな子は、自分のやりたいことをやれないとぐずってしまう。その子の意見をなるべく尊重してあげたい」

このように生徒たちはほんの僅かですが、職業に直接触れることで社会生活の一端や仕事の必要性を知り、人の役に立つことの喜びを実感する。未来を築く中学生たちが有用な社会の一員として健全に成長することを願い、これからも微力ながら応援していきたい。深友会の皆さまも是非ご協力お願いいたします。

### 山登りをしてみませんか

深沢中学校長 金井勝政

私は、幾つかのアウトドアの趣味をもっていますが、その中に登山があります。若い頃から誘われて多少は登っていましたが、中年(四十歳代)になってから真剣に登り始めました。なぜ中年になってからかと言え、足を使う事と手先を使う事で、ボケ防止になると聞いたことも原因の一つであります。

百名山に拘りもち登っています。歩けなくなる迄に百名山を幾つ登れるでしょうか、ちなみに現在までに丁度四十の山に登っています。若い時は体力に任せかなりハードな登山をしましたが、最近ではゆっくりと時間をかけ、黙する生物に目や心を向けながら登っています。

春・夏・秋の年間三回程程度の山行です。かつてはお天気男と呼ばれていましたが、最近では雨にたたられる事が多いです。ふだんの行いが悪いのか、お天気の神様からは若干見離されているようです。

今年の夏山は白馬岳登山を計画しました。私は白馬は二回目でしたが、友人達は初めての白馬と言うことで心浮き浮ききようでした。暑い鎌倉を離れ、大雪渓を涼しい気持ちで登る予定でした。

ところが当日は大雨と雷。山の雷は恐いと聞いていましたが、まさにその通り雷にうたれて死ぬのではないかとさえ思いました。悪戦苦闘の末、何とか山頂の小屋に逃げ込むようにして到着しました。着替を済ませやれやれと思つたのも束の間、次は眠る場所の確保をしなくてはなりません。・・・それは、山小屋が大変混雑していたからです。山頂には山小屋が二件あり、収容人数は二千五百人程と聞いていたのですが、この日は、なんと七千人を越す登山者が、この二件の山小屋に泊まるとの事、畳一畳に三人が寝るスペースが何とか与えられました。寝返りが出来ない状態が想像できます。・・・夕食が終わるとめいめい眠る準備に入ります。八時過ぎには、いびき・寝言・歯軋りなどが彼方此方から聞こえてきます。こちらも負けてはいられません。・・・

山の朝は早く、四時頃から動きだす人々がいます。四時五十分御来光の間、私達は四時三十分起床して外に出て、思わずバンザイ・・・素晴らしい天気です。昨日の苦労が一遍に吹き飛びました。いよいよご来光です。大自然がおりなす神秘的な技が繰り広げられます。・・・雲海が紅く染まり、その遥か彼方から真っ赤な太陽が昇ってきました。感動で体が震えました。二日目は素晴らしい天候に恵まれ遠

望ができ、ルンルン気分です。尾根道を歩きました。お花畑がいたる所にあり、高山植物の花が咲き乱れる中、八時間かけての下山です。十五時三十分予定通り下山・・・缶ビールを一本グーイと飲む・・・美味い。

「あーいい山行だった」こみあげて

### 深友会と深中教職員のソフトボール大会・懇親会

六月三十日(土)、午後三時より恒例の深友会と深中教職員のソフトボール大会とパーベキューの懇親会が中学校で開かれました。

●ソフトボールでは途中から雨模様となり、外野ではボールが見えない状況の中、熱戦が繰り広げられました。昨年に引き続き先生方の猛打爆発で、深友会の守りの長いこと。仕方ありません。ほとんどの人が一年に一回のバット・グローブです。先生チームの圧勝でした。次回は生きのいい同窓生を迎えて互角の試合をしたいものです。

●パーベキュー・パーティ 試合の始まる前から調理実習室を借りて女性三名の方に仕込みをして頂きました。ほぼ終えてグラウンドに出てきた頃には試合は終了していて、がっかりとしたこの事。次回は方法を考えたいと思います。反省。



来る満足感・・・登ったものだけに与えられる特権なのでしょうね。深友会の皆様も健康保持のため歩くこと、そしてその延長として山登りをお勧めします。

パーティには元校長の北村先生もお越しになり、和気あいあいの懇親会となりました。生ビールリトル缶三本、気候の割りに少なかつた。その他は満足でした。(諸石)

### 我が中学生時代

第九回生 田邊順式

私達が中学生生活を過ごした昭和二十九年四月からの三年間は、正に不況の真っ直中で、今日と同じような状況にあった。大きく違うのは、今日はいろいろな物が豊富にあるが、その当時は必要な物さえも不足していたことである。鎌倉市も赤字財政が続ぎ、市民の生活は苦しかったようだが、豊かな自然環境が、人々の心を癒して、どこか長閑なところがあった。その数年後には、工場誘致・大規模団地の出現等で、その様相を一変するのだが。

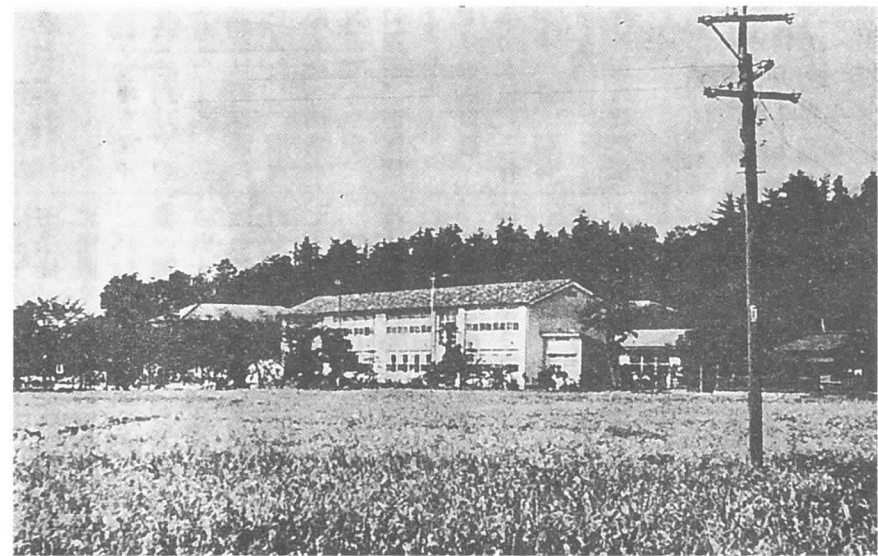
その頃の、小・中学生の遊びといえは、男子は、馬乗りごっこ・プロレスごっこ・コマ回し、女子は、ゴム跳びであった。私は友達と、片瀬ゴマを買いに江の島まで歩いて行った。

ラジオでは、笛吹童子・赤胴鈴之助等を放送していた。わたしは、鉱石式受信機を造り、それらを聴いたものだ。国産のトランジスタが開発され、小型ラジオが市販され始めたが、高嶺の花であった。町中の映画館では、二十四の瞳・ゴジラ等の映画が上映されていた。これも又、歩いて見に行った。さらに、プロレス「力道山・木村政彦対シャープ兄弟の対戦」等のテレビ放送を見るために、街頭に設置されていた

テレビまで、行ったものだ。その当時の深沢中学校は、普通教室六という小さなもので、運動場も極端に横長で、深沢小学校と共用というものであった。私は、中学校に入学間もなく野球部に入部した。部員数少なく運動神経の善し悪しに関係なくレギュラーになれた。

野球部は、共用運動場の長い方をレフトとして利用していたので、勢い、ライト方向へのゴロや小フライを除く、ほとんどのボールは頭上をはるか飛び越え、小径・小川を隔てた田圃に墜り込んだものだ。私もその一人であったのだが、ライトを守る野手は、いつも裸足であった。

ライトの野手の役割は、捕球するというよりは、田圃に入り、ボールを探すというものであった。ほとんどのボールは田圃にぼつかりと穴が空いているので、直ぐに見つけることがで



昭和30年頃の深沢中学校

### 同期会だより

◆第二〇回生(昭和四三年卒業)

去る六月二三日、藤沢にて同期会が行われました。毎年三年一組のクラス会でしたが、ここ数年前からクラスに關係なく行われています。

一次会は二六名、二次会は二四名と参加し布川浩先生、太田俊朗先生方もご出席頂きお元気な様子でした。

いづれは四クラス合同の会になればもっと大勢の人達と、学生時代の懐かしい話や近況など、話し合えればと思っております。

来年も開催の予定ですので、今まで出席出来なかつた方も是非ご出席して下さい。

なお、全員には同期会通知が届いて無いと思いますが、ご了承下さい。(宇田美也子)

